

行雲流水

No. 12 令和3年4月8日発行

育てたように子は育つ

校長 寒河江 正人

「子曰く、^{しいわ}苗にして^{なえ}秀でざる者あり。^{ひい}秀でて^{もの}実らざる者あり。」

(孔先生がおっしゃった。芽を出して、苗にまで生長したのに、花を咲かせることのない人がある。花は咲いても、実のならない人がある。たいへん残念なことである。)

孔子は、人間の成長を、植物の生長にたとえて、なかなか思うようには育たないということを弟子たちに語っております。

どんなに「**良い素質**」をもっていたとしても、実を結ぶことができないままにいる若者を見て、「本人の努力が足りないから悪いのだ。」と短絡的に罵り、突き放すのではなく、教育者として、そのような若者に力を貸して、実を結ばせてあげたいものだと諭しているのです。

孔子は、弟子の教育に際して、同じことを教えるにしても、その弟子の特性をよく見て、一人ひとりに適した教育(個別最適化した指導・支援)を施したそうです。

<本日の「オリエンテーション・歓迎集会」で確認した「学習・生活上の約束事」>

「伝えつつも、伝わったはず」「理解したはず、できるはず」になってはいませんか？
「**伝える**」と「**伝わる**」は、違うのです。

最初はよくても、人間というものは、必ず「ゆりもどし」は、生じるものなのです。
それが「子どもというもの」なのだということを大人は「織り込み済み」で理解して、
一人ひとりの実態に合わせて、丁寧に何度でも、できるまで寄り添って「待つ」姿勢を。

「**できるまで、もう一回の丁寧な指導**」を！ 一年間じっくり時間をかけて育てましょう。
「**決して根負けはしない。**」という大人(教職員と保護者)の「**渋とさ**」が肝要なのです。
大人の自己満足で、言うだけ言って、「あとと野となれ山となれ」では、無責任です。
生徒が「はばげで」しまって、学校に来られなくなるようでは、本末転倒。
つまらぬ「目先の見栄や欲」のために、元も子も無くしてはいけません。
「**急がば回れ！**」 私たち大人(教職員・保護者)には、「**賢い知恵**」があります。